

モモホモプシス腐敗病に対する展着剤利用の相乗効果

福島県果樹試験場病理昆虫部

平成14～17年度福島県果樹試験場試験研究成績書

1 部門名 果樹－モモ－病害虫防除

分類コード 04-02-23000000

2 担当者 菅野英二・尾形 正

3 要 旨

モモの殺菌剤削減防除体系は平成13年に防除基準に採用され、ホモプシス腐敗病に対して6月20日～7月20日に15日間隔で殺菌剤を散布する。しかし、多雨条件下では防除効果が劣る場合があるので、防除効果安定のため展着剤の利用を検討した。

(2) 殺菌剤には、殺菌剤削減防除体系で採用されているダコレート水和剤 1,000倍およびベルコート水和剤 1,000倍を使用した。展着剤には、特性の異なるアビオンE 1,000倍、サブマージ 3,000倍、ニーズ 1,000倍、パンガードKS-20 2,000倍およびミックスパワー 3,000倍を供試した。平成14～15年は14～22日間隔で薬剤を2～3回連続で散布し、平成16～17年は薬剤散布後の自然条件下で感染させ、果実収穫後にホモプシス腐敗病の発病の有無を調査した。

(3) その結果、15日程度の散布間隔では、アビオンE、サブマージ、ニーズまたはパンガードKS-20を添加した場合は、殺菌剤単用に比べて高い防除効果を得ることができ、ミックスパワーを添加した場合のみ効果がやや低かった。なお、ニーズを加用した区では葉に円形の褐色斑点を多数生じ、一部の葉はやがて落葉する薬害を生じた。

(4) 以上のことから、展着剤のアビオンE、サブマージまたはパンガードKS-20を殺菌剤のダコレート水和剤またはベルコート水和剤に添加することにより、ホモプシス腐敗病に対して十分に安定的な防除効果が得られると考えられた。

4 その他の資料など

なし